

## 指導と評価の計画

学校名	〇〇〇〇高等学校	授業者	〇〇 〇〇
教科・科目	地理歴史科・世界史探究	使用教科書等	『詳説世界史』(山川出版社)
学年	第3年次	クラス(人数)	〇・〇組合同(〇〇人)
内容のまとめ	E 地球世界の課題 (3)科学技術の高度化と知識基盤社会		
単元名	科学技術の高度化と知識基盤社会		
<p>【生徒観】</p> <p>本学級は、授業に対し真面目に取り組む生徒が多く、穏やかな雰囲気の中で授業に取り組んでいる。その一方で、積極性に乏しい面もあり、授業中の意見表明に対し控えめであるという課題も残る。</p> <p>2年次の後期から、世界史探究においては MetaMoJi Classroom を活用した授業を展開している。本年度は単元のまとめを MetaMoJi Classroom の画面上に書き込む活動を導入しており、ICTを用いたアウトプット活動には慣れてきている様子が見受けられる。</p> <p>【教材観】</p> <p>21世紀に入り、科学技術の急速な発展と知識基盤社会の到来は、私たちの生活や社会構造に大きな変化をもたらしている。本教材では、科学技術の高度化がもたらした社会的・経済的影響や、知識や情報が価値を持つ現代社会の特徴について多面的に考察する。生徒が現代社会の課題や可能性を主体的に捉え、歴史的背景と関連付けて理解を深めることができる教材構成を目指す。</p> <p>本単元は、学習指導要領において「原子力の利用や宇宙探査などの科学技術」「医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理」「人工知能と労働の在り方」「情報通信技術の発達と知識の普及」から構成される大項目Eの重要な柱である。しかし、現代の文化は、従来の世界史教育において大きく取り上げることが少ない分野である上に、特に「人工知能と労働の在り方」については、教科書によって扱いの大きさに差が見られる。本校で使用する『詳説世界史』(山川出版社)だけでなく、記述内容が比較的豊富な『高等学校世界史探究』(第一学習社)など他の教科書の内容も参考にしながら、適切に教材を構成していきたい。</p> <p>【指導観】</p> <p>本単元では、科学技術の高度化と知識基盤社会の形成を歴史的に捉えるとともに、現代社会における課題や可能性について探究的に学ぶことを目指す。指導にあたっては、理科や情報科、地理総合、公共など他の教科・科目との関連を意識し、科学技術の発展が自然環境や社会制度、倫理観に与える影響について多面的に考察する機会を設ける。例えば、理科で学ぶ技術革新の仕組みや、情報科で扱う情報化社会に関する知識を活用しながら歴史的背景との接続を図ることで、より深い理解と批判的思考力の育成を促す。また、現代的な課題と歴史的な事象を結び付けて考える力を育てることで、生徒一人ひとりが未来社会の担い手としての自覚を持てるよう支援する。</p>			

本指導計画では、大項目Eを単元とし、以下の小単元を設定し、指導計画を構成している。

- 大項目E 地球世界の課題……………単元5(25時間)
- 中項目(1) 国際機構の形成と平和への模索……………小単元1(9時間)
- 中項目(2) 経済のグローバル化と格差の是正……………小単元2(6時間)
- 中項目(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会……………小単元3(4時間) 本単元
- 中項目(4) 地球世界の課題の探究……………小単元4(6時間)

## 1 単元の目標

- ・歴史的に形成された地球世界の課題について構造的に理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・地球世界の課題に関わる諸事象について、公文書や手紙・日記、歴史書、芸術作品や風刺画、写真や映像、統計、年表や地図などの諸資料を活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
- ・地球世界の課題に関わる諸事象について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解している。</li> <li>・先進国の経済成長と南北問題、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、経済のグローバル化などを基に、格差是正の取組と課題を理解している。</li> <li>・原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、知識基盤社会の展開と課題を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球世界の課題に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>・単元の学習を通して、課題について主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

<p>・歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を理解している。</p>	<p>・地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	
------------------------------------	--	--

### 3 単元における指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」, ●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
(1) 国際機構の形成と平和への模索	小単元1(9時間)	<b>単元を貫く問い</b> 地球世界の課題を克服するために、人類はどのようなことに取り組むべきなのだろうか？			
	<b>課題</b> 20世紀後半から21世紀にかけて、世界の紛争はどのように解決されてきたのだろうか？また、その解決方法には、どのような課題があるのだろうか？				
	第①次 集団安全保障と冷戦の展開				
	<b>問い</b> 冷戦下の世界では、どのように安全保障がはかられたのだろうか？	●			●地球世界の課題に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ●集団安全保障と冷戦の展開を基に、紛争解決の取組と課題を理解している。
	第②次 アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き				
<b>問い</b> 独立したアジア・アフリカの国々は、どのような役割を担ってきたのだろうか？	●			●国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動きについて多面的・多角的に考察し、表現している。	
第③次 平和共存と多極化の進展					
<b>問い</b> 冷戦の対立構造はどのように変化したのだろうか？	●			●平和共存と多極化の進展を基に、紛争解決の取組と課題を理解している。	
第④次 冷戦の終結と地域紛争の頻発					
<b>問い</b> 冷戦の時代と冷戦後の紛争解決方法の違いはどこにあるのだろうか？	●			●国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目して、冷戦の終結と地域紛争の頻発について多面的・多角的に考察	

		<p>第⑤次 小単元のまとめ</p> <p>・小単元を貫く問いについての考察</p>		○	<p>し、表現している。</p> <p>○国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>(2) 経済のグローバル化と格差の是正</p>	<p>小単元2(6時間)</p>	<p><b>課題</b> 20世紀半ばから21世紀にかけて、経済格差の是正はどのように模索されてきたのだろうか？</p>			
		<p>第①次 先進国の経済成長と南北問題</p> <p><b>問い</b> 南北間の経済格差は、どのように形成されたのだろうか？</p> <p>第②次 アメリカ合衆国の覇権の動揺</p> <p><b>問い</b> アメリカ合衆国の覇権は、どのように動揺したのだろうか？</p> <p>第③次 資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換</p> <p><b>問い</b> 石油危機により打撃を受けた先進工業国は、政治・経済の在り方をどのように変容させたのだろうか？</p> <p>第④次 アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題</p> <p><b>問い</b> 途上国間の経済格差は、どのように形成されたのだろうか？</p> <p>第⑤次 経済のグローバル化</p> <p><b>問い</b> グローバル化が進む現代の国際社会は、どのような課題を抱えているのだろうか？</p>	●	●	●

		<p>第⑥次 小単元のまとめ</p> <p>・小単元を貫く問いについての考察</p>		○	<p>○国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会</p>	<p>小単元3(4時間)(本単元)</p>	<p><b>課題</b> 科学技術の発達により変わりゆく世界で、君たちはどう生きるか？</p>			
		<p>第①次 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術</p> <p><b>問い</b> 人類にとって、科学技術の発達をもたらす“良い影響”と“悪い影響”はどちらの方が大きいのだろうか？</p> <p>第②次 医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理</p> <p><b>問い</b> 科学技術の進歩は、人間の生命の在り方をどこまで変えられるのだろうか？</p> <p>第③次 人工知能と労働の在り方の変容</p> <p><b>問い</b> 人工知能は、労働の在り方をどのように変えるのだろうか？</p> <p>第④次 情報通信技術と知識の普及</p> <p><b>問い</b> 知識が簡単に手に入る社会において、“学ぶ”意味とは何か？</p> <p>・小単元を貫く問いについての考察</p>	●	●	<p>●地球世界の課題に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>●原子力の利用や宇宙探査などの科学技術を基に、知識基盤社会の展開と課題を理解している。</p> <p>●科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目して、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目して、人工知能と労働の在り方の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目して、情報通信技術と知識の普及について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事</p>

					象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。
(4) 地球世界の課題の探究	小単元4(6時間)	<p><b>課題</b> (i)紛争解決や共生、(ii)経済格差の是正や経済発展、(iii)科学技術の発展や文化の変容のいずれか一つについて、地球世界の課題の形成に関わる主題や問いを設定し、これまでの世界史探究の学習成果を踏まえ、探究してみよう。</p>	<p>第①次 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中項目(1)~(3)の学習を振り返りながら、(i)紛争解決や共生、(ii)経済格差の是正や経済発展、(iii)科学技術の発展や文化の変容のいずれか一つについて、地球世界の課題を歴史的に探究する主題や問いを設定する。</li> </ul> <p>第②次 課題分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史探究の学習を振り返りながら、地球世界の課題がどのような歴史的経緯を経て形成されたのかを分析したり、資料を収集したりしながら、背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題や問いを解決するための論点を設定する。</li> </ul> <p>第③次 課題解決と展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球世界の課題について、これまで考察してきた歴史的経緯を振り返りながら、未来はどのように展開するか、その未来に対して私たちはどうすべきかについて、目指すべき未来像を構想する。</li> </ul> <p>第④次 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したレポートを発表する活動を通して、多面的・多角的な視点から自身のレポートの記述を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地球世界の課題に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、単元の学習を通して、課題について主体的に追究しようとしている。</li> <li>●歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を理解している。</li> <li>●地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想している。</li> <li>●地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> </ul>

	<p>第⑤次 学習のまとめ</p> <p>・ここまでの学習を踏まえて、レポートを完成させ、大項目E全体のまとめを行う。</p>	○	<p>○地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>
--	---	---	--

#### 4 小単元の目標

- ・20世紀後半以降の科学技術や文化について構造的に理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・20世紀後半以降の科学技術や文化に関わる諸事象について、公文書や手紙・日記、歴史書、芸術作品や風刺画、写真や映像、統計、年表や地図などの諸資料を活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
- ・地球世界の課題に関わる諸事象について、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

#### 5 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の展開と課題を理解している。</p> <p>・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</p>	<p>・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>・小単元の学習を通して、課題について主体的に追究しようとしている。</p>

## 6 小単元の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

		学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術	第1時	<p><b>単元を貫く問い</b> 科学技術の発達により変わりゆく世界で、君たちはどう生きるか？</p>				
		<p>・単元を貫く問いに対する現時点での考えを自分の言葉で表現する。</p>			●	<p>●科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>
		<p><b>【ねらい】</b>第二次世界大戦後における原子力の利用や宇宙探査の歴史について扱い、科学技術の発展が人類にとって大きな成果とともに意図せざる負の結果ももたらしてきたことに気付く。</p> <p><b>課題</b> 人類にとって、科学技術の発達をもたらす“良い影響”と“悪い影響”はどちらの方が大きいのだろうか？</p>				
		<p>・原子力の利用や宇宙探査の歴史について学習する。</p> <p>・科学技術の発達をもたらした成果と負の結果について考察する。</p>	●		●	<p>●原子力の利用や宇宙探査がどのように進められたのかということについて理解している。</p> <p>●科学技術の発展が人類にもたらした影響について、成果とともに負の側面があったことを踏まえて考察し、適切に表現している。</p>
第②次 医療技術・バイオテクノロジー	第2時	<p><b>【ねらい】</b>医療技術やバイオテクノロジーの発達について扱い、技術の進歩が平均寿命や世界人口にもたらした影響について学ぶとともに、生命倫理をめぐる問題に直面したことに気付く。</p> <p><b>課題</b> 科学技術の進歩は、人間の生命の在り方をどこまで変えられるのだろうか？</p>				
		<p>・医療技術やバイオテクノロジーが発達した過程について理解する。</p> <p>・科学技術の発達により登場した生命倫理の問題について考察する。</p>			●	<p>●現代における人間の生命の在り方について多面的に考察し、適切に表現している。</p>
第③次 人工知能と労働の在り方の変容	第3時 (本時)	<p><b>【ねらい】</b>コンピュータの発達、1950年代以降の人工知能研究の進展などについて扱い、過去の産業革命の際の動向と比較することで、AI時代における労働形態の変化の特徴に気付く。</p> <p><b>課題</b> 人工知能は、労働の在り方をどのように変えるのだろうか？</p>				
		<p>・「人工知能」の概念について認識を共有する。</p> <p>・過去の産業革命と労働の在り方との関係について考察する。</p> <p>・人工知能の開発がもたらす労働の在り方の変容について考察する。</p>			●	<p>●人工知能の開発がもたらす労働の在り方の変容について、過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察し、自分の言葉で表現している。</p>

第④次 情報通信技術の発達と知識の普及	第4時	【ねらい】情報通信技術の発達について扱い、さまざまな情報があふれる現代における学びの意義について考察する。	
		<p>●</p> <p>●知識基盤社会において求められる能力が何であるかを踏まえ、これからの時代に求められる学びの在り方について考察し、自分の言葉で表現している。</p>	
<p>課題 知識が簡単に手に入る社会において、“学ぶ”意味とは何か？</p>		<p>●</p>	<p>●知識基盤社会において求められる能力が何であるかを踏まえ、これからの時代に求められる学びの在り方について考察し、自分の言葉で表現している。</p>
<p>単元を貫く問い 科学技術の発達により変わりゆく世界で、君たちはどう生きるか？</p>		○	○知識基盤社会における自分の生き方について、学習した内容を踏まえて自分の言葉で表現している。
<p>単元を貫く問いについて、学習した内容を踏まえて自分の言葉で表現する。</p>		○	○知識基盤社会における自分の生き方について、学習した内容を踏まえて自分の言葉で表現している。

7 本時の展開(1時間分)			
本時の目標		人工知能が普及する現代における労働形態の変化の特徴について、過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察する。	
過程	分	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入	5	<p>【本時の課題】人工知能は、労働の在り方をどのように変えるのだろうか。</p> <p>・本時の課題に関する授業開始時点での考えを、MetaMoJi Classroom のワークシートに書き込む。</p>	<p>・本時のねらいと授業の流れについて、生徒と共有する。</p>
展開1	5	<p>【SQ1】人工知能とは何か。</p> <p>人工知能の開発史</p> <p>・計算機・コンピュータの発達や1950年代以降の人工知能研究の進展について学習することで、「人工知能」の概念について認識を共有する。</p>	<p>・コンピュータ分野をはじめとする科学技術の高度化が現在の「第3次AIブーム」を支えていることに気付かせる。</p>
展開2	10	<p>【SQ2】過去の産業革命は、労働の在り方をどのように変えてきたのだろうか。</p> <p>過去の産業革命と労働の在り方の変容</p> <p>・「(第1次)産業革命」「第2次産業革命」「第3次産業革命」に関する学習内容を振り返り、資料をもとに労働の在り方の変容について考察する。【グループワーク(3~4人)】</p>	<p>・MetaMoJi Classroom のモニタリング機能を用いて、進捗状況を確認しながら机間指導にあたる。</p>

展開 3	20	【SQ3】人工知能をもたらす労働の在り方の変化を、過去の産業革命時のそれと比較してみよう。	
		第4次産業革命と労働の在り方の変容 ・人工知能の発達をもたらす社会の変化について調べ、展開2の内容と比較しながら過去の産業革命との共通点・相違点について考察する。【グループワーク(3~4人)】	・出典を明示させる。 ・MetaMoJi Classroom のモニタリング機能を用いて、進捗状況を確認しながら机間指導にあたる。
まとめ	10	・学習した内容を踏まえ、本時の課題についてまとめる。 ・他の生徒の記述内容を見て、自分の記述内容を再考する。	●人工知能の開発をもたらす労働の在り方の変容について、過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察し、自分の言葉で表現している。【思】

## 8 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について

### (1) E(4)「地球世界の課題の探究」につなげるための本時の位置づけについて

学習指導要領は、内容の取扱いについて「内容のA、B、C、D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように」としている。E(4)「地球世界の課題の探究」については、E(1)「国際機構の形成と平和への模索」、E(2)「経済のグローバル化と格差の是正」及びE(3)「科学技術の高度化と知識基盤社会」で学習したことを踏まえ、①紛争解決や共生、②経済格差の是正や経済発展、③科学技術の発展や文化の変容に関わる課題に関連する主題を生徒が設定し探究する学習活動が「世界史探究」のまとめとして位置付けられている。

今回の授業実践においては、本時の授業をE(4)において現代的な諸課題に関連する主題を探究するために必要な力を育成するための場として位置付けた。学習指導要領は、E(4)の学習において次のような力を身に付けることとしている。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア)歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ)地球世界の課題の経済に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の世界史について多面的・多角的に考察・構想し、表現すること。

E(4)の学習につなげるために「歴史的経緯を踏まえて」「諸事象の歴史的背景」という部分に着目し、本時においては、人工知能技術の発達にともなう労働の在り方の変容について、過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察し、表現させることとした。

### (2)本時における生徒の記述内容に対する評価について

「7 本時の展開」で示した通り、本時の課題に対する記述内容から「思考・判断・表現」の評価を実施する。本時において設定した問いは、次の通りである。

**SQ1** 人工知能とは何か。

提示資料 ・人工知能開発の歴史【年表】

**SQ2** 過去の産業革命は、労働の在り方をどのように変えてきたのだろうか。

提示資料 ・エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の実態』(歴史学研究会編『世界史史料6』岩波

書店)【史料】

- ・「木綿工業における機械の導入(18C 末)——ジェームズ・オグデンの記録(1783)」(歴史学研究会編『世界史史料6』岩波書店)【史料】
- ・ラダイト運動【画像】
- ・「イギリスの工場労働者の性別と年齢構成(19C 半ば)」(『19 世紀イギリスにおける女性労働と低賃金』)【グラフ】
- ・「工場で働く少女の一日(1832)」(『西洋史料集成』)【図】
- ・ヘンリー＝フォード『わが人生と仕事』(有賀夏紀他編『史料で読むアメリカ文化史4』東京大学出版会)【史料】
- ・ジーン＝リチャード「組み立てラインで働く」(1937)(有賀夏紀他編『史料で読むアメリカ文化史4』東京大学出版会)【史料】
- ・「大企業がアメリカ経済に占める割合」【グラフ】
- ・「労働形態の変容(20C 末～21C 初頭)」(歴史学研究会編『世界史史料 12』岩波書店)【史料】

**SQ3** 人工知能がもたらす労働の在り方の変化を、過去の産業革命時のそれと比較してみよう。

- 提示資料 ・黒木裕鷹・久米功一「人工知能等の発展が労働市場に及ぼす影響に関するサーベイ」(2024)【論文】
- ・深尾京司・池内健太ほか「AIおよびロボット技術の進展と日本の雇用・賃金」(2025)【論文】
  - ・岡野原大輔『大規模言語モデルは新たな知能か——ChatGPT が変えた世界』(岩波書店、2023)【書籍】
  - ・AI評価値を用いた将棋の対局中継画面【画像】
  - ・「世界時価総額ランキング(2022)」【表】
  - ・「平成 28 年度版 情報通信白書」【白書】

**本時の課題** 人工知能は、労働の在り方をどのように変えるのだろうか。

小単元の評価規準は「科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している」である。本時の課題に対する記述については、人工知能の開発がもたらす労働の在り方の変容について、過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察し、自分の言葉で表現することができていれば、B「おおむね満足できる」状況といえる。

本時の課題に対する生徒の記述内容① B「おおむね満足できる」状況と評価

過去の産業革命で各分野の労働内容や労働者の仕事自体が新しいものに代替されていったように、人工知能に関わる新たなハイテクノロジー産業が生まれることで、第一次、第二次産業を中心に人間の労働の必要性がなくなっていくと考えられる。求められる人材は科学技術などの高度な技術をもった人々が中心で、肉体労働や単純作業をする必要はなくなる。

この生徒は、技術革新が仕事の内容を置き換えていくという点に着目して記述している。過去の産業革命の際の動向に共通点を見出した上で人工知能がもたらす労働の変化に言及していることから、B「おおむね満足できる」状況であるといえるだろう。この生徒が属するグループでは、別の生徒がSQ2への解答として、技術革新によって必要でなくなった仕事やスキルについて適切にまとめている。SQ2での協働的な学びが本時の課題に対する記述に活かされているといえる。

#### 本時の課題に対する生徒の記述内容② A「十分満足できる」状況と評価

過去の産業革命でも第4次産業革命でも技術革新によって働き方などが変わるのと同じだが、これまでの産業革命においては技術が発展しても作業をするのは人間のままであった。しかし、これからは進化した技術に作業を任せて、人間は新たな労働の仕方や雇用を探していくことになる。また、これからの時代は技術を使いこなせる人たちが活躍していく時代になることが予想できる。そのため私たちは技術の使い方や情報リテラシーを身につけていく必要がある。

人工知能は我々の労働の在り方を大きく変えていく。人間は人工知能の適切な使い方を身につけていかなければならない。また、人工知能と人間の共同作業が増えていくと思う。互いにできないことを補完し合うという形の共同作業が増加していくと思う。

この生徒は、記述内容①と同様、現代における労働の在り方の変容について過去の産業革命の際の動向と比較しながら考察することができている。これに加えて、人工知能が普及する現代社会において人間が身につけるべき力について言及しており、小単元を貫く問いである「科学技術の発達により変わりゆく世界で、君たちはどう生きるか？」につながる記述であることから、A「十分満足できる」状況であるといえるだろう。

#### 本時の課題に対する生徒の記述内容③-1 C「努力を要する」状況と評価

人工知能の発達により、今までの技術革新にはなかった新たな仕事の誕生などの変化が生まれた。単純な労働を機械などに任せられるなどの良い点もあるが、人工知能への理解を身につけていないとこれからの社会では仕事を得られなくなるなどの課題もあるため、人工知能と上手く共存していく必要がある。

#### 本時の課題に対する生徒の記述内容③-2 B「おおむね満足できる」状況と評価

人工知能の発達は、単純作業を機械に任せられる点で産業革命の機械化と似ており、当時と同じく仕事は分解・再編され、新しい職種も生まれる。単純な労働を機械や人工知能に任せられるなどの良い点もあるが、人工知能への理解を身につけていないとこれからの社会では仕事を得られなくなるなどの課題もある。19世紀に労働条件や制度が整えられたように、AI時代もリテラシー習得とルール作りを進め、AIと補完し合う働き方を目指したい。

記述内容③-1について、過去の産業革命の動向に関する言及がないことからC「努力を要する」状況であるとし、授業中に声かけを行った。この生徒が所属するグループは、展開2において過去の産業革命の動向について資料から適切に読み取ることができていることから、グループワークで挙げられた内容を記述に反映させるように指示を加えた。その結果、記述内容③-2のように書き加えられており、記述内容①と同様にB「おおむね満足できる」状況に到達していると判断した。

## 9 「研究テーマ」を踏まえた成果と課題

### (1)「研究テーマ」

「教科書“を”教える授業」から「教科書“で”教える授業」への転換

## (2)成果

本研究では、世界史探究における授業改善を目指し、教科書の扱い方を再考する取り組みをおこなった。従来の「教科書“を”教える授業」から脱却し、教科書を学習の素材として活用する「教科書“で”教える授業」への転換を試みた結果、以下の成果が得られた。

### ①教科書比較による視野の拡大

複数の教科書を比較検討することで、各社の編集方針や問いの立て方、史料の提示方法の違いを把握することができた。これにより、教科書を単なる“歴史的事実”の提示ではなく、複数の視点を示す素材として位置付ける意識が高まった。

### ②史料収集による授業の質的向上

教科書に加えて資料集や書籍(歴史学研究会編『世界史史料』岩波書店など)から史料を収集し、授業で活用できる素材を整理した。史料を比較・分析する活動を導入することで、生徒が世界史について批判的な視点をもって学習する基盤を整えることができた。

### ③授業観の転換の萌芽

「教科書“を”教える」から「教科書“で”教える」への意識改革が進み、教科書を情報源・比較対象として扱う授業デザインが可能になった。生徒が教科書を読む主体になる場面を増やすことができた点は大きな成果である。

## (3)今後の課題

本研究の成果を踏まえ、さらなる改善に向けて以下の課題が明らかになった。

### ①問いを軸とした年間指導計画の再構築

今回の取り組みを通して、教科書の章立て順に進める従来の計画から、学習の流れを問いでつなぐ構想へと部分的に転換することはできた。しかし、年間を通して科目全体を適切な問いで構成するという目標はまだ実現できていない。また、問いに基づく学びを評価するためのルーブリックや課題の整備も不十分である。

### ②学びの個別最適化を見据えた授業づくり

生徒が史料を使って考察する活動を強化していきたいところではあるが、歴史を探究するためには、思考の前提となる概念知識を身に付けることも同様に重要であると考えている。多様な学力の生徒が同じ空間で学ぶ授業という場において個別最適な学びの機会をどのように提供するのかという視点は、今後に向けての課題としたい。